



2015 年 8 月 20 日

シンクタンク アジア GAP 総合研究所 主催

<2015 年 GAP 普及大賞>**韓国の営農組合法人ノルメインサム 朴範鎮（パクボムジン）の
国際的な視点を持った GAP 普及の取り組みが評価されました。**

アジア GAP 総合研究所（理事長：（農）和郷園 木内博一）は、GAP 普及大賞選考委員会を開催し、韓国の営農組合法人ノルメインサム 朴範鎮（パクボムジン）の取り組みを含む 3 つの GAP 普及の優良事例を表彰することを決定しましたので、ご報告致します。

■GAP 普及大賞 受賞事例：**韓国における国際的な視点を持った GAP 普及の取り組み****<受賞者> 営農組合法人ノルメインサム 朴範鎮（パクボムジン）氏**

農産物の輸出を推進している韓国において、韓国の最重要農産品の一つである高麗人参を生産する営農組合法人ノルメインサムは、韓国政府が推進する K-GAP のみならず、日本の JGAP や欧州の GLOBALG.A.P.にも取り組み、日本マーケットや海外市場への輸出を行っています。自らが認証を取るだけにとどまらず、周辺の農家にも海外の GAP に関する情報提供や指導を行い、韓国人参マイスタ協同組合の JGAP 団体認証の取得も同法人が牽引しました。

韓国論山市から指定を受けて海外認証支援センターを立ち上げ、JGAP を含む海外の GAP に関する研修会を頻繁に開催し、自らのノウハウを韓国の農家に広めています。これまで無かった JGAP の韓国語訳の作成にも尽力し、韓国の農家が海外の GAP に取り組みやすい環境づくりでも貢献しています。その結果として、JGAP や GLOBALG.A.P.認証を取得済みの高麗人参は生産量 33t 栽培面積 3.64ha となり、今後も増え続ける予定です。

農産物輸出が重要課題である韓国にとって、営農組合法人ノルメインサム朴範鎮氏の貢献は大きく、国際的な視点を持った GAP 普及の取り組みとして高く評価されます。

NEWS RELEASE

GAP 普及大賞は、今年一年間で最も GAP の普及に貢献した取り組み事例を表彰するものです。
2015 年 GAP 普及大賞の選考委員は次の通り。

荘林幹太郎（学習院女子大学 国際文化交流学部 教授）

岩元明久（日本農業普及学会 副会長）

迫田登稔（国立研究開発法人 農研機構 中央農研 上席研究員）

堀江隆（公益財団法人 日本適合性認定協会 参事補）

韓国の営農組合法人ノルメインサム 朴範鎮の取り組みに加え、下記の 2 事例が同時に受賞しました。いずれも甲乙付け難い GAP 普及の優良事例です。

－GAP 普及大賞－

■食品メーカーによる農業の持続性を高める GAP の取り組み

<受賞者> 日本コカ・コーラ株式会社

－特別賞－

■GAP を活用した東日本大震災に伴う風評被害への対策

<受賞者> まるせい果樹園（福島県）

以上、3 受賞事例につきまして、下記のシンポジウム内で表彰式と受賞者による記念講演が行われます。ぜひご来場ください。

■シンポジウム「GAP Japan 2015」

日時：2015 年 9 月 10 日（木） 13 時から 17 時

場所：東京大学 武田ホール（東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学工学部武田先端知ビル 5 階）

関連ホームページ：http://jgap.jp/LB_06/GAP_Japan2015.html

■アジア GAP 総合研究所について <http://asiagap.jp/>

日本唯一の GAP のシンクタンクとして、東アジアの GAP 指導と農産物のブランド化を支援しています。JGAP / GLOBALGAP / TaiwanGAP 等の農業現場の指導、およびバイヤー企業が定める独自の調達基準の【導入・指導 / 二者監査】もサポートしています。

問合せ先：佐久間（さくま）TEL 029-893-4424 FAX 029-893-4425 E-mail: info@asiagap.jp

（取材を希望される場合は、下記を記入の上、FAX または E-mail で送付ください。）

御社名 _____ 部署名 _____ 御名前 _____

住所 _____ 電話番号 _____